

# 子育て世代みらい会議



8月2日(水) 知遊館で、子育て世代みらい会議を開催しました。NPO法人まるっと丹育さんにご協力をいただき、20年後30年後のまちについて、子どもたちに残したい暮らしや街並み、何人の子どもたちに住んでいてほしいか、今考えておくべきことは何か。子育て真っ最中のお母さんを中心に、グループワークを行いました。



「まず親が町や地域の良さを知って子どもに伝える」「子どもが自転車で安心して出かける」「子どもの居場所がある」「家族ぐるみで地域に参加」など、大人たちの姿を見せながら、子どもたちがいつでも町や地域に関わることが出来る機会や場づくりなどの意見が交わされました。

特に小さなお子様をお持ちのご家庭では、子ども中心の時間割の中で目の前の家事・育児・仕事・その他いろんな事をこなされる日々にあつて、未来の家族、未来の自分について描くことはとても新鮮だったのではないのでしょうか。そして、一緒に参加してくれた小さなお子様たちは、グループワークの間、いつも一緒にいるお母さんと離れ、ドキドキわくわく長い冒険のようなお友だちとのふれあい時間を過ごしてくれました。

## あっちこっちみらい会議

7月から8月にかけて、いろんな年代×いろんな地域×いろんな職業×いろんな〇〇…そんな組み合わせで、まちの未来を描き、新しい気づきと未来へ繋がるアクションを皆さんと一緒に考える場づくりをお手伝いしました。

日常生活で感じていることや想っていることから創造する未来像、これからの地域のありたい姿、自分らしく暮らせるまち、そして地域やまちの魅力が活かされるまちなど、参加された皆さんは楽しく、真剣に、熱く語り合われました。

- ① 7月11日(火) よさの百年の暮らし委員会
- ② 7月19日(水) 紅葉を育てる会・紅葉の会
- ③ 8月4日(金) 岩滝ボランティア連絡協議会
- ④ 8月9日(水) 滝・金屋農業振興会
- ⑤ 8月9日(水) 遊中部



THE YOSANO FUTURE PRESS

# 与謝野みらい新聞

## 第六号

与謝野みらい新聞  
2017年 8月25日 発行  
発行所 ・与謝野町役場  
編集 ・企画財政課  
・総合計画策定委員会  
ワーキングチーム

- 1,2 加悦高生の想い
- 3 よさの想い人
- 4 子育て世代みらい会議  
あっちこっちみらい会議  
4コマ漫画



## みらいのまちに想いを馳せる

梅雨明けが待ちきれない天候で汗が滴る中、7月11日(火) 加悦谷高校3年生全員が参加した高校生みらい会議を開催。会場となった第2体育館は未来を描く高校生若き熱気に溢れかえり、117名の生徒の皆さん、グループにしてその数20班という大規模なワークショップとなりました。

## 7月11日(火) 加悦谷高校



10年先、20年先、またその先がどうなっているか、予測される社会の出来事を参考にしながら、初めは未来の自分を考え、2040年までの未来年表を作ります。自分事でありながら、なかなかペンが進まない様子も見られましたが、各グループ和気あいあいとみんなの未来年表を共有できました。

地域や与謝野町の未来、どんなまちであつてほしいかを創造するワークショップでは、「大都会になつてほしい」「遊ぶところがいっぱいあるまち」「電車がいっぱい走るまち」など、都市化や利便性を求める声が上ががり、ヒトやモノで溢れ賑やかなまちへの憧れが垣間見えました。その一方で、「自然あふれるまち」「今のままでいい」という声もあり、小さな頃から慣れ親しんでいる豊かな自然を大切に想うと同時に、未来へ残していきたい魅力の一つとして刻まれていることが分かりました。

未来の自分自身や地域、まちのことに ついて、同級生同士で話し合った時間は、改めてふるさとへの意識を持つ機会となつたのではないのでしょうか。



# よさの想い人

～住まう・想いを寄せる～

伝統をつなぐ・地域をつなぐ・元気をつなぐ・若者につなぐ

「与謝野町に住まう人」「与謝野町に想いを寄せる人」から、ライフワークを通じた「ふるさとへ、つなぐ想い」を語っていただきました。その一部をご紹介します。



周りのやさしい人に囲まれて

伸び伸びと子育てができるいいところ

匿名(20代女性/公務員)

Q 仕事を通じて感じていることは？  
A 行政の仕事は、気持ちに寄り添う事が大切だと感じています。相手の方の人生を想像



7月19日(水)

## 加悦谷高校 未来のまちを創造する



ばならないもので、事業を早く進めてほしいと思っています。

Q どんなまちにしたいですか？  
A 人と人が緩く繋がれるまち。困ったら「聞いてくれる、気にしてくれる」そんなまちです。若い世代には、緩き加減がちょうどいいのではと思います。お互い支え合える雰囲気はまだ残っている。与謝野町では、信頼や安心を感じながら、得意分野を持ち寄り「繋がりを感じながらやりたいことができる」環境が整うのではと思います。個人的には、UターンやIターンを希望される方たちの居場所づくりをしたいです。

Q どんな活動をされていますか？  
A 温江地区の衰退が気になり、地区を元気にするため、地区の人と話し合いながら、温江村づくり委員会の活動や温江菜彩館の運営を通じて地域づくり村づくりをやっています。担い手、人材不足が課題ですね。日頃から子どもを大切にしている気持ちを持ち、子どもたちが遊びに来て喜んでもらえる取り組みができればと思っています。また、地域でいかに頑張れるかが大切だと思います。

「観光地がたくさんあるまち」という未来像が挙げられました。これらの未来像には「豊かで美しい自然や風景」がまちや地域の宝であると捉えられており、それらの魅力を生かしていく環境整備、町内外問わず魅力を発信していくべきとの発表がありました。



5年、10年かけて人を育てることが重要

糸井 雅人さん(東町在住)

Q 織物や織機のメンテナンスをされていて感じていることは何ですか？  
A 高齢化、人材不足です。昔は技術者が織機を調整しながら、いろんな織物を織ることができました。今は技術者不足で織れる織物が減ってきています。「丹後の織機でしか織れない」ものも多く、人材育成が重要だと考えています。後継者が少ないのは、昔から織りではなく「別の仕事を探してこい」と子どもに言い聞かせていたことも原因だと思っています。

Q 地域での活動を教えてください。  
A 東町区では神楽の相談役、大行列では副会長、また障害者団体の役員をしています。特に、神楽保存会が30歳の頃に立ち上げ、後世に残していくために先輩に教えていただき、「何でもできるヒト」になれるようがんばりました。また、手をつなぐ親の会を設立したのは平成17年頃です。直接お会いし、話を聞いてもらい理解していただき、スタートしました。こういった努力は必要です。



女性目線を大切に。

匿名(20代女性/保育士)

Q ひまわりふれ愛隊を通じて与謝野町に貢献している事ですか？  
A 主に火災予防や防災について、広報活動として紙芝居や防災カルタで、住民の皆さんや子どもたちに予防の大切さを伝えていっています。大切にしてほしいことは、女性目線を大切にしている事です。女性ならではの活動や消防団に所属しているからこそその活動を広げていきたいと思っています。

Q どんなまちにしたいですか？  
A 自然が大好きな元気いっぱいの子どものまちが、昔のように伸び伸びと外で遊び、地域の人たちとの関わる町になればいいなと思います。公園はいろいろな人と触れ合える場所でもあるので大切にしていきたいです。